

第41回地方独立行政法人神戸市民病院機構評価委員会 欠席委員の意見

OP2 前文

「患者の視点に立った」きめ細やかなサービスの提供とあるが、患者にも様々なケースが存在し、万人の気持ちになりきることは困難であり、この表現では患者の抱える要望・要求に全て応えるという印象をもたれてしまう恐れもある。患者と医療機関は互いに節度を持った関係を保つことも重要であり、表現を「患者の立場を考えた」と変更することにより、患者が何を考えているのかを医療機関が理解するという正しい意味合いを表現できると思う。

OP16 患者の権利を尊重し、信頼と満足が得られる体制の構築

先日ある病院を視察する機会があり、患者・見舞者など病院を訪れる全ての人に対して、及び職員間で「あいさつ」が徹底されていることに感銘を受けた。その取り組みの効果として、「多職種間のコミュニケーション」の改善にも繋がったそうである。院内コミュニケーションはとても大切で、とくに「多職種間」における情報共有が促進されれば、多くの問題を未然に防ぐこともできる。患者からの電話相談を受けている経験から、とくに中央市民病院のような大きな病院では、医師の権限や発言力が強くなる傾向にあり、多職種間でのコミュニケーションが円滑でないケースが見受けられる。診療科の垣根を越えた取り組みが重要である。

OP17 優れた専門職の確保と人材育成

今年度から開始された新専門医制度では、症例数が集まらない病院には専攻医が集まりにくくなるのが課題となっている。安定的な医師確保に向けては、専攻医をはじめとした若手医師が集まりやすくなるよう、医療のレベルを上げ、ネットワークに加わることを機能強化の一環として取り組んで行く必要があると考える。中央市民病院は多くの科が基幹病院となっているが、西市民病院と西神戸医療センターの医師育成について伺いたい。

OP29 積立金の処分に関する計画

積立金は設備や医療機器等に充てることも用途となっているが、設備や医療機器は市の運営費負担金からも支出しているため、機構の経営努力により得た利益といえども適切に執行管理を行うとともに、法人のガバナンスとして行政負担に対する認識を職員が共有しておくべきである。

(裏面に続く)

○総括

全体的に読みやすく、見やすくなったと思う。気になった点としては、第3期の目標値と第2期までの実績に関わる関連指標が併記されているので、関連指標は「これまでの実績値」であることがより明確に分かるようにしておいた方が分かりやすい。また、設定した目標値は、期間内に1度だけ、あるいは第3期の最終年度までに達成すれば収支目標を達成できるものではないので、第3期中期計画期間中の平均値等であることを分かるように明記しておくべきである。

○総括

市民から見て分かりやすくする視点も必要である。例えば「地域がん診療連携拠点病院」という表現もあれば、他で「地域の医療機関と連携」という表現等、「地域」という言葉においても多様な意味がある。医療に関する用語も多数あるので、これらを分かりやすくできるよう工夫してほしい。

○総括（コメント）

計画としては全体的に良くまとまっていると思う。あとは実行レベルに落とし込んだときに、その細かい部分を診療科レベルで改善し、目標達成出来るように取り組んでもらいたい。